

学生の進路選択及び心身の健康等に係わる支援

<看護学研究科>

1. 研究指導

研究については、分野別にまとめ、幅広く研究課題に取り組めるようにしています。そのため、学生は分野内で教員の指導・助言を受けることが可能となり、より充実した研究が進められます。

2. 博士前期課程科目「各看護学演習 MII」における実習

本学では、看護実践のリーダーや管理者としての実践力の強化を目指します。①現場改善の研究力、②組織的活動力、③多職種との連携、調整力、④実践の改善力、⑤リーダー力としての教育能力の強化を目指し、現場での実習を含んだ科目である「各看護学演習 MII」を 11 領域で設定しています。

3. 相談窓口

大学院生活で困ったことや問題が生じたときには、教員や職員が相談に対応しています。また、ハラスメント問題専用の窓口を設け、対応できるようにしています。

4. 健康管理

年に 1 回健康診断を実施し、学生の健康チェックを実施しています。さらに、博士前期課程「各看護学演習 MII」における病院実習では、必要に応じて、感染症抗体検査を実施し、抗体価が基準に満たない場合は、予防接種の指導を行っています。さらに、任意の学校保険加入の説明を行っています。

学内には、保健室を設置して体調不良時の一時的な対応を可能としています。

防災訓練は、年 1 回予定しています。

5. 地域に根ざした大学

本学は、大府市と地域連携に関する協定を締結しており、市と市民、地域、大学、事業者などと一体となって看護の立場から「協働」によるまちづくりを実施しようとしています。大学には、学生ボランティア等を積極的に行える窓口として、「地域貢献室」を設置し、地域住民の健康増進について体験的に学ぶことを目指しています。

6. 修了後に目指す教育・研究機関、病院施設等における貢献

- ・研究者として自立した活動、また高度実践者としての専門業務に従事します。
- ・各看護の専門内容を深め国民に対して看護の質保証を図り、また教育の質の保証のために自立した研究者・教育者として活躍することによって社会貢献します。
- ・看護学の実践科学としての看護実践の理論性・科学性が探求できる高度な専門性を発揮し、人々の健康問題の早期解決や改善・ケアシステムの改善を効果的に行うことによって社会貢献します。